

課目名	化粧品化学Ⅱ						
課目名(英)	Cosmetic Chemistry						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	高橋 龍、中川 貴彦		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	学習塾講師担当		
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	化粧品(化粧品と医薬部外品)の種類、名称、作用、取り扱い上の注意点について知識定着を図るとともに、国家試験の様式に合わせた対策を行い、国家試験合格を目指す。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					化粧品の種類、名称、作用、取り扱い上の注意点を説明できる。	
		○				化粧品の特性を知った上で、化粧品に関する文章の用語が分かり、正誤判断ができる。	
				○		化粧品化学を学ぶ必要性を認識した上で、積極的に授業に参加することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・化粧品科学 教科書 ・授業プリント(各回の授業最初に配布)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	化粧品概論 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	2	化粧品原料 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	3	化粧品原料 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	4	化粧品原料 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	5	化粧品原料 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	6	基礎化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	7	基礎化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	8	基礎化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	9	毛髪用化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	10	毛髪用化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	11	毛髪用化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	12	毛髪用化粧品 教科書内容の復習と問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	13	国家試験過去問・想定問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	14	国家試験過去問・想定問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
	15	国家試験過去問・想定問題演習				授業プリントは保管・管理を各自行うこと	
評価方法	(1)定期試験(選択肢式・筆記試験) (2)小テスト (3)授業中の態度 の3つにより評価を行う。 (3)授業態度は、出席・提出物(オンラインでの提出を含む)などで評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	授業、定期試験ともに国家試験を前提とし、語句などの知識問題、そして国家試験のように文章を読んで正誤を判断する問題を扱う。						

課目名	文化論Ⅱ						
課目名(英)	cultural theory						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	吉田理恵子		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美容文化論教員資格取得後 文化論の授業を行う		
対象学科・学年	美容科2年生						
授業概要	国家試験に対する知識を深め日本ファッション文化史を学ぶ。人の歴史の最古から美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。文化論の中には、デザインを発送するためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在する。文化を知り、知識を得ることで、お客様に幅広いスタイル提供ができる。即戦力に繋がる社会人を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日本ファッション文化史における文化の流れを説明できる。	
	○					日本ファッション文化史における、それぞれの時代の髪型。メイクを説明できる。	
	○					礼装の種類を理解し歴史を説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 文化論教科書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 総論			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	2	第2章 日本の理容・美容の歴史			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	3	第3章 ファッション文化史(日本編)縄文・弥生・古墳時代・古代			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	4	第3章 ファッション文化史(日本編)中世・近世Ⅰ・Ⅱ			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	5	第3章 ファッション文化史(日本編)現代Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	6	まとめ①(第1節～第4節復習テスト①実施)			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	7	まとめ②(第5節復習テスト②実施)			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	8	第3章 ファッション文化史(日本編)近代			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	9	第3章 ファッション文化史(日本編)現代・Ⅳ			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	10	まとめ③(第6節復習テスト③実施)			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	11	第5章 和装の礼装			教科書を使い、予習・復習を行う。		
	12	第5章 洋装の礼装			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
	13	まとめ④(第5章 復習テスト④実施)			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
	14	まとめ⑤(国家試験対策⑤)			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
15	後期松試験・解答・解説			対策プリントを使い、予習・復習を行う。			
評価方法	(1)定期試験により評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					100%
履修上の注意							

課目名	運営管理						
課目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30	担当者	山口 隆司		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	麻生塾グループ校で教鞭をとる		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	運営管理は、よい美容サービスにより顧客満足を実現することで、店を守り発展させていく取り組みをいう。その取り組みの大半は経営者によって行われる。多くの人は従業員として雇用されることでキャリアをスタートさせるのではあるが、経営者の考えていること、目指していることを知っておくことは、従業員として活躍するためにも、将来自ら経営者として成長していくためには重要なことである。この科目では、このような観点から、「①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割」「②雇用する責任や働くうえで求められること」「③顧客を満足させるサービスとは何か、それをどう実現するか」の3点を中心に学びます。						
授業形態	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					経営に必要な概念や専門用語について理解する	
		○				経営に必要な専門用語について正しく活用ができる	
テキスト・教材 参考図書	公益財団法人 日本理容美容教育センター 運営管理						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1編 経営者の視点	第1章 経営とは・経営者とは①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	2	第1編 経営者の視点	第1章 経営とは・経営者とは②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	3	第1編 経営者の視点	第2章 美容業の経営について①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	4	第1編 経営者の視点	第2章 美容業の経営について②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	5	第1編 経営者の視点 第1編 経営者の視点	第3章 資金の管理① 第3章 資金の管理②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	6	第3編 顧客のために	第1章 サービス・デザイン①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	7	第3編 顧客のために	第2章 サービス・デザイン②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	8	第3編 顧客のために 第3編 顧客のために	第2章 マーケティング① 第2章 マーケティング②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	9	第3編 顧客のために	第3章 サービスにおける人の役割①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	10	第3編 顧客のために	第3章 サービスにおける人の役割②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	11	第2編 人という資源	従業員としての視点 第1章 人という資源①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	12	第2編 人という資源	従業員としての視点 第1章 人という資源②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	13	第2編 人という資源	従業員としての視点第2章 健康・安全な職場環境の実現①	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
	14	第2編 人という資源	従業員としての視点第2章 健康・安全な職場環境の実現②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること			
15	第2編 人という資源 第2編 人という資源	従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から① 従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から②	教科書の概要範囲を事前に読んでおくこと 授業中に実施する小テストについて復習すること				
評価方法	(1)授業の中で小テストを随時実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト	○					20%
履修上の注意	教科書の内容や専門用語は、将来、実務に従事する際に必ず要求されるものです。正確に理解し、正しく活用できるように学習を進めてください。						

課目名	ヘアテクニック【シャンプー＆ブローⅡ】						
課目名(英)	syampoo & blow						
単位数	1単位	時間数	30時間中10時間	担当者	江藤 登志美・森 建太		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	サイドシャンプー及びバックシャンプーの技術工程を理解し、反復練習を実施することで卒業後の即戦力となり得る技術習得を目指す。また、基本のブローテクニックをモデルに対して練習していく事で、ウィッグでは体感できない注意点を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			バックシャンプーの手順を覚え、手技を習得する	
				○		お客様への施術を通して、快感をあたえ、心身のリラクゼーション効果を高めるよう配慮できる	
			○			即戦力となるレベルのシャンプー技術を習得する	
			○			ブローのテクニックを実施し、様々なヘアスタイルに対してのスタイリングの工夫ができる	
			○		ブローテクニックを人頭で実施する事で、その注意点やテクニックを理解する		
テキスト・教材 参考図書	美容技術理論① シャンプー＆ブロー道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	バックシャンプー 手順の確認・復習 ブロースタイリング 相モデルによるハンドブローテクニック			バックシャンプー の手順を事前に確認しておくこと ブローの基本技術を事前に復習しておくこと		
	2	バックシャンプー プレーンリンスのテクニック ブロースタイリング 相モデルによるストレートブローテクニック			ストロークの練習をしておくこと ブローの基本技術を事前に復習しておくこと		
	3	バックシャンプー あわ立てとストロークの大きさ・強弱 ブロースタイリング 相モデルによるストレートブローテクニック			ストロークの練習をしておくこと 前回の技術を事前に復習しておくこと		
	4	バックシャンプー トリートメントテクニック ブロースタイリング 相モデルによる内巻きブローテクニック			ストロークの練習をしておくこと 前回の技術を事前に復習しておくこと		
	5	サイドシャンプー 手順の確認・相モデルによる反復練習 ブロースタイリング 相モデルによる内巻きブローテクニック			ストロークの練習をしておくこと 前回の技術を事前に復習しておくこと		
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)実技テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		実技テスト	○	◎			90%
		授業態度			◎		10%
履修上の注意	特段の事情を除いて、授業は休まないでください。授業中の私語は、厳禁です。復習は必須です。						